

国会請願まで2ヶ月

(5月12日に予定)



香川県。 274

2021. 3.15

治安維持法廃止同盟

香川県本部

高松市塩江町安原下

1-649-22

電話087 (897) 0004

会員の皆さんに署名への
協力をお願いいたします。

年内に行われる総選挙で野党連合政
権実現のため闘いましょう。

前政権に続いて菅政権は官邸強権と隠
ぺい、ゆ着と悪政をおし進め、コロナ
禍の中でも国民にだけ自粛を求め、自
からはモラルも何もない乱れきった状
態です。

この自公政権を変えましょう。それは
「再び戦争と暗黒政治を許さないため
に」を実現する道です。

全会員5から10筆署名を進めましょう。
ご協力ください。

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

- 一、治安維持法体制の復活に反対する。
- 二、国は、戦前の治安維持法が人道に反する悪法であると認めること。
- 三、国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償を行うこと。

。映画「伊藤千代子の生涯」製作運動用
DVD (20分) を貸し出します。

このたびPR版を取りよせました。活用ください。

【運動へのマシ支援をお願いします!!】

1口1000円募金にご協力下さい

2口、5口、10口……と期待します!!

。3月の日程

県本部理事会 3月17日(水) 13時30分

。第92回香川県メーデー (集会のめ)

5月1日(土) 10時 高松市中央公園

。年度末、会費完納をめぐりまして

ご協力よろしくお願ひします。

か月後、日記の内容が危険思想の持ち主と見られ、除隊処分にあつた。しかし、その理由は強度の近視というこ
だった。

一九二二(大一一〇)年四月、普通寺の私立尽誠中学(現尽誠学園高校)の英語の教師となる。ところが、夏
み中に無断で東京へ出奔し、家とは断絶関係になる。

一九二二(大一一一)年四月ごろ、大学の先輩白鳥省吾を訪問し、彼の推薦で『日本詩人』に短詩「直線」ほ
数篇を発表する。七月、中沢静雄の小説集『一日の糧』出版記念会で萩原恭次郎を知る。九月に個人雑誌『出発』
を創刊。このことが、文学的生涯で大きな意味を持つ岡本潤との出会いとなる。

一九二三(大一一二)年一月、萩原恭次郎らと『赤と黒』を創刊。「詩とは爆弾である!」という有名なアナキ
ズム宣言文は、この時に雑誌の表紙に刷られた。西欧の未来派・ダダ・表現派などの新思潮が詩壇を变革し、マ
バンギャルド運動が活発になる。九月、関東大震災に遭遇、帰省。翌年二月岡本の勧めで上京。無産派詩人連
の展覧会を開催し、また『ダム・ダム』を創刊する。

一九二五(大一一四)年二月、かねてから文通中の岩井栄と結婚し、世田谷の三宿に居を構えるが、後に若林
移る。

一九二七(昭二)年一月創刊の『文芸解放』の編集・発行所は、繁治の若林の宅だった。その頃、アナキズ
とマルキシズムの対立抗争が激しくなり、二月五日、飯田豊一宅で会議中、黒色青年連盟に襲撃され、
三か月の重傷を負う。この事件で雑誌は廃刊し、またアナキズムとも決別した。

一九二八(昭三)年、代々木町幡ヶ谷に転居した。二月に三好十郎らと左翼芸術同盟を結成。以後、
翼運動へ傾斜していく。そして、機関誌『左翼芸術』の創刊号に「無産階級芸術戦線の統一へ!」を発表
日本共産党弾圧三、一五事件の一〇日後、ナップが結成され、繁治はこれに参加する。

七月、市ヶ谷刑務所に、二九日の拘留を初めて経験する。その後数次の検挙拘留が繰り返された。

一九二九(昭四)年一月『戦旗』に最初の小説「踏みつけられる麦」を発表。一〇月、戦旗社に入り、経営に
没頭する。その後五年間の詩作の空白期間を生んだ。(戒居仁平氏の「壺井栄伝」の栄年譜では、昭和四年七日

「繁治は香川で検挙され、海向かいの志度・高松の警察に転々四〇日間
拘留」と記されている。) 一九三〇(昭五)年八月一六日早朝検挙さ
れ、治安維持法違反容疑で起訴され、豊多摩刑務所に入獄。一九三一
(昭六)年四月保釈出所。二四日の日本プロレタリア作家同盟の第三回
大会で、中央委員に選出される。八月、宮本顕治の推薦で日本共産党に
入党する。

一九三二(昭七)年三月二四日、コップ弾圧で、小川信一宅で窪川鶴
次郎とともに検挙され、再入獄。一九三四(昭九)年二月、共産主義運
動より離脱する旨の二回目の上申書を書き、転向。五月に保釈出所する

一九四五(昭二〇)年八月一五日、東京鷺宮の自宅で敗戦を迎える。
この時「戦争という重たい荷物をやっと肩からおろしたという消極的な
解放感」を得るのみだったという。(沢豊彦の記述による)

敗戦後間もなく繁治は日本共産党へ再入党した。戦後の繁治の活動に
ついては、新日本文学会の設立や、詩人としての作品活動と、詩人会議
の設立、運営。さらには評論活動、後進の指導など多岐にわたるもので
あった。一九六七(昭四二)年、長年にわたる伴侶壺井栄の死去。その悲しみにもたじろがず、積極的に生き

て、活動したことは、戦争中に心ならずも「転向」という形の屈辱を植え付けられ、それを
「女房は私の挫折と敗北については、直接非難めいたことを一言も言わなかった。けれども彼女としても、割り
切れぬ気持ちでどこまでもつきまといていると見え、わたしのこうした出獄の仕方を必ずしも喜んでる様子は
見えなかった。ただ黙っていること、それがわたしにはいちばん辛かった」と
と「激流の魚」の中で記し、生涯抱き続けていたようである。

プロレタリア文学...プロレタリア=ことを提供するも以外に、
国家に貢献できぬ者、無産階級、労働者階級、資本主義社会において、生産手段をもたず、自己の労働
力を売る以外に生活の道をもたない階級。この階級の幸せを求める文学。
第一次世界大戦中に谷頭し、1920年代から30
年代のプロレタリア文化の中心となった革命的民主
的な文学。21年創刊の「種蒔く人」、24年創刊
の「文芸戦線」による作家たちによって方向づけが
なされ、29年の日本プロレタリア作家同盟(ナッ
プ)が結成された頃が最盛期であった。
評論家(萩原惟人・宮本顕治)作家(小林多喜二・
宮本百合子・徳永直・村山知義)詩人(壺井繁治)
野人(海辺昭二)俳人(原社一太郎) ちびのちび